

学校教育目標	かしこく たくましく ゆたかに ～「ひと」とのつながりを大切に生きる児童の育成～
目指す学校像	輝く笑顔 学ぶ意欲あふれる学校
重点目標	1 「学習者が主体的に学ぶ授業」の実現に向け、児童が真ん中にいる教育活動の展開 2 子どもたちの心に寄り添い、チームで支える学校づくり 3 子どもたちのエージェンシーを地域で育むコミュニティ・スクールの推進 4 教育環境の整備（安心・安全できれいな学校づくり） 5 「新たな教師の学びの姿」に向け挑戦し続ける校内体制の構築

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和 年 月 日	
年度評価								学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	・国語および算数の学力において、いずれも全国平均および市の平均を下回っている。 ・学習に対する意欲や態度については、市の平均とほぼ同程度であり、大きな差は見られない。 ・調べ学習や学習内容のまとめに対して、主体的に取り組む児童が多く見られ、学習への積極的な姿勢がうかがえる。 〈課題〉 ・国語においては記述式の問題への対応力が弱く、算数では「データの活用」に関する理解や活用力が十分でない。 ・学習意欲や主体性をさらに引き出し、それを土台として、知識の定着および思考力の向上を図る必要がある。	・ICTを活用した「個別最適な学び」の理解と実践	①教職員研修や市教委の訪問などを活用し、「アクティブ・ラーニング型授業」と「学びのポイント（じ・し・や・く）」のチェックリストで授業改善に取り組む。 ②SDB の教育データを活用して単元全体の学習計画を立て、タブレットで個別最適な学習支援を行う。	・学びの指標（児童）で「ICT の効果的な活用」の項目において、校内平均が市平均を上回る。 ・学びの指標（教職員）で「児童生徒の個の習熟の程度に応じた支援を行っている」肯定的回答が80%以上。 ・学びの指標（教職員）で「学級、学年、異学年、他校など、多様な学習集団を編制している」肯定的回答が80%以上。 ・学校評価（保護者）「主体的に学ぶために効果的な指導・支援を行っている」昨年度同水準(93.4%)					
		・多様な他者との体験・交流を通じた「協働的な学び」の実践	① ICTを活用し、対話・協働による課題解決型学習を取り入れる。 ② 地域と連携した体験学習を年間計画に組み込み、実施する。 ③ 異学年・他校との交流で多様な価値観に触れる機会をつくる。						
2	〈現状〉 ○児童およびその保護者に対して丁寧に寄り添いながら、信頼関係の構築・発展に努めている ○継続的な観察やアンケートの実施などを通じて、児童一人ひとりの理解を深める取組を行っている。 〈課題〉 ○児童の個々の状況をより的確に把握するためには、日常的な情報収集に加え必要に応じて迅速かつ適切に外部機関と連携し、学校全体として組織的に対応できる体制の整備が求められる。	・いじめ、差別を許さない児童一人ひとりが安心安全を感じる環境づくり	①集団や社会との関わりに関することについて校長講話(学期1回)や道徳の授業(年1回公開)を行う。 ②アンケートや面談で児童の心の状態を把握し、専門職・保護者と連携して迅速に支援する。	・集団や社会との関わりに関することについて校長講話(学期1回)や道徳の授業(年1回公開)ができたか。 ・学校評価（保護者・教職員）「友だちと仲良く生活する態度を育む教育活動を実践している」昨年度同水準(95%) ・学校評価（児童・保護者）「相談しやすい環境整備」95%(R6:児童91%、保護者95%) ・教職員アンケート「情報を共有しチームで対応できたか」肯定的回答90%					
		・情報共有による児童支援体制の強化	①すこやか委員会（月3回）で生徒指導・教育相談の情報やSDBデータを共有し、継続的な支援を行う。 ②欠席や相談状況を Teams で迅速に共有し、対応を検討する。						
3	〈現状〉 ・登下校の見守りや読み聞かせ、おやじの会、自治会・育成会・PTA の支援により、地域と連携した活動が定着しつつある。 ・学校だよりやHP で教育活動を広報し、授業参観や行事も積極的に公開している。 〈課題〉 ・学校運営協議会で地域の教育力（SNN 等）を活かす行事の実現に向け、熟議と積極的な行動が求められる。	・学校の公開性の向上	①学校運営協議会やSSN の取組を、学校だよりやホームページで発信する。（年3回以上） ② おやじの会など地域の協力を得て、地域資源を活用した教育活動を行う。	・学校行事や授業を月1回以上公開できたか。 ・学校運営協議会やSSN の取組を年3回以上発信できたか。 ・学校評価(学校運営協議会委員・保護者)「学校の公開性、地域との相互理解に努めている」昨年度同水準(委員:100%、保護者96%) ・市学習状況調査【生活習慣に関する調査】アンケート「地域をよくするために何かしてみたいか」85%(R6:81.5%)					
		・地域とのつながりを深める取組	①学校行事や授業を公開し、保護者や地域に学校の様子を伝える。（月1回以上） ②地域行事を広報し、子どもたちの主体的な参加を促す。						
4	〈現状〉 ○施設整備の不具合が認められた場合、児童の安全確保への措置を速やかに行い、市教委と連携し対応している。 〈課題〉 ○今日のな事件・事故事案を踏まえ、自然災害や不審者などへの対応力を高める。	・安全点検の実施と対応体制の強化	①毎月の安全点検の重要性を教職員に周知し、不備の報告があった場合には速やかに現状を確認のうえ、管理職と事務職員が連携して対応を協議する。	・学校評価(保護者・教職員・学校運営委員)「学校内外での児童の安全対策や危険防止等」昨年度同水準(保護射95%) ・傷病者対応訓練、避難訓練（地震・火災・水害）、不審者対応訓練の実施。					
		・避難訓練等の実施	①実践的な傷病者対応訓練、様々な自然災害に対応した避難訓練、不審者対応訓練を実施する。						
5	〈現状〉 ・自主研修により「アクティブ・ラーニング型授業」への理解が深まり、実践力が向上した。 ・研修奨励により、教職員の研修参加が活発になった。 〈課題〉 ・環境の変化を前向きに捉え、生涯にわたり主体的に学ぶ教師像の実現が求められている。 ・子どもの Well-being 実現のため、教職員の働きやすさと働き甲斐を両立し、教職員自身の Well-being 向上が必要。	・「新たな教師の学びの姿」の実現	①初回面談で研修意向を共有し、「全国教員研修プラットフォーム」の活用を促す。 ②他校の授業を参観し、教育の最新動向への理解を深める。（教職員の90%）	・教職員アンケート「参加した研修により教師力が高まったと実感できた」肯定的回答90% ・90%の教職員が他校の授業を年1回以上参観したか。					
		・更なる働き方改革の推進	①ICT を活用し、多様な情報を共有できる仕組みを構築・運用する。 ②ストレスチェックや勤務時間の一覧を活用し、教職員のメンタルヘルスを的確に把握する。	・教職員の働き方に関する調査で肯定的回答80%					